

特別支援学校（聴覚障害）小学部における英語教育（外国語活動）の現状

韓国の聴覚障害児用に作成された3年生用の英語の教科書分析を通して

○鈴木 祥隆 (岐阜大学教育学部) 瀧沢 広人 (岐阜大学教育学部) 金 恩河 (韓国 昌原大学校)
KEY WORDS: 特別支援学校（聴覚障害） 外国語活動 韓国

目的

日本では2020年度から小学校3年生の外国語活動が必修化された。一方、韓国では英語教育が日本よりも先行して行われてきており教育現場における知見の蓄積もなされている。その成果の1つとして、聴覚障害児用の教科書が作成されている。本研究では韓国の聴覚障害児用の小学校英語の教科書を取り上げ、その特徴について明らかにする。

方法

分析の対象：韓国で聴覚障害児用に作成された英語（3年生用）の教科書（韓国の名称では、特殊初等学校英語補助教科書（聴覚障害学生）3年生用）1冊とした。この教科書は、現在、韓国の学校教育現場で使用されている英語の教科書である。これは韓国の教育部（文部科学省）が2016年に作成したものである。現在、作成されている聴覚障害児用の英語3年生用の教科書は分析の対象とした1種類である。

分析の観点

1. 聴覚障害児用の英語の教科書の構成
2. 教科書の各レッスンに出てくる活動項目

各レッスンに取り上げられている活動項目が4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）のどの技能に該当しているかを分類した。4技能に該当しない技能と判断された2項目については、新たに項目を加えた（手話、文字）。例として、項目”Read and Write”は、内容を踏まえ、読むことと書くことを取り扱っているとした。StoryにはLessonに対応した項目が示されていないため、分析の対象から除外した。

3. 教科書全体の各技能の項目数の算出

分析2の後、各レッスンの項目を抽出し、教科書全体でどの技能が何項目取り上げられているのかを算出した。

4. 韓国の英語の教科書の特徴

1～3の分析を踏まえ、韓国の教科書の特徴について考察を行った。

結果

1. 聴覚障害児用の英語の教科書の構成

教科書は①教科書本体（Fig. 1）、②カードやシール、③ワークブック（Fig. 2）から構成されていた。教科書のページ数は①115ページ、②57ページ、③95ページであった。

教科書の内容は、LessonとStoryで構成されていた。Lesson数が10個、Story数が5個であった。2Lessonごとに1つのStoryが配置されていた。Lessonでは、”I'm○○”や”It's a book”などの英語の学習を行う。一方、Storyは、2つのLessonで学習した語彙や文章を活用して漫画形式で復習ができる章になっている。

教科書の作成に当たり、単元学習の目標語彙と文章は、聴覚障害児の言語特性と能力を考慮して選定されたとの記述が見られた。

2. 教科書の各レッスンに出てくる活動項目

項目はLook and Guess、Let's Sign、Listen and Repeat、Look and Listen、Listen and Do、Look and Say、Let's Talk、Talk and Play、Read ABC、Look and Sign、Let's Chant、Read and Do、Review、Look and Read、Read and Write、ABC Play、であった。各レッスンは12～15項目で構成されていた。



Fig. 1 教科書（左）とワークブック（右）

3. 教科書全体の各技能の項目数

聞くこと60項目、話すこと40項目、読むこと33項目、書くこと10項目、文字17項目、手話17項目であった。

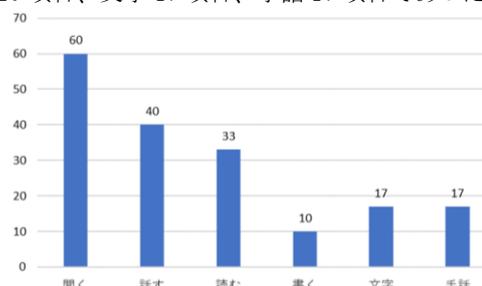


Fig. 3 教科書で取り上げられていた各項目数の内訳

4. 韓国の英語の教科書の特徴

ここでは、分析の対象とした韓国の聴覚障害児用の英語（3年生）の教科書の特徴的な項目について報告を行う。

- ・QRコードについて

Let's Sign、Listen and Repeat、Read ABC、Look and Singの4項目にはQRコードが付いており、QRコードを読み取ることで、動画教材にアクセスできるようになっていた。

- ・手話について

各レッスンのLet's SignとLook and Signの項目では、ASL（American Sign Language）の表現が取り上げられていた。

考察

2020年度現在、日本では聴覚障害児用に作成された外国語活動の教科書はない。一方、韓国では2016年には聴覚障害児用の教科書が作成されていた。今回の分析の対象とした教科書は初版である。聴覚障害児の外国語の指導については、母国語の指導よりも丁寧な指導が必要となる。こうした背景を踏まえると、韓国では聴覚障害児の英語の指導に対してASLやアルファベットの指文字が取り入れられており、英語の手話や指文字から英語を学ぶことができるよう構成されていた。またQRコードで動画教材にアクセスができるようになっており、音声だけでなく映像も合わせた教材が用意されていた。一度での聞き取りが難しい聴覚障害児の特徴を踏まえ、見返すことができるようになっていた。

今後、韓国の聴覚障害児用に作成された小学校4、5、6年生の英語の教科書の分析を進め、活動内容や学年間の指導内容の関連についても分析を進める。

（文献）

特殊初等学校英語補助教科書（聴覚障害学生）3年生用

（Yoshitaka SUZUKI, Hiroto TAKIZAWA, Eunha KIM）

付記 本研究はJSPS科研費（19K14283）の助成を受けた。